

## 体質改善五本の柱を推進 創立四十周年を迎える

昭和四十六年（一九七二）は、中小企業投資育成会社の資本参加をふくめた増資により、資本の充実が果たされたが、この他に体質改善のための五本の柱を重点推進事項として挙げ、スタートさせた。

この四十六年は、八月に米国が金・ドルの交換一時停止などのドル防衛策を発表したことから“ドルショック”が起こり自動車産業、とくにダイーゼル自動車関係の業績停滞の影響をうけ、当社の売上実績は前年比一〇%ダウンとなった。高度経済成長時代に入って初めての体験であった。これを貴重な教訓にして、経営体質の改善に取り組むことにした。

- 一、資産の活用を図るため虎ノ門本社を地下一階、地上十階建とし、本社機構の合理化と経営活動の強化推進を図る
- 二、内需率向上のため、チェリーケミカル工業の設立と、既存ルートを利用した科学分野への進出
- 三、製品輸出から資本輸出への転換策として海外進出計画を企図し、その第一弾としてタイ国に合弁会社を設立
- 四、多角化を目的とした新製品開発プロジェクトで進めている新製品のヒートインシュレーターを企業化する
- 五、コンピューターを導入し、生産及び事務管理の合理化、スピード化を図り、これを駆使する人材育成

この五本の柱は、順次実行に移され、初期の目標を達成した。

昭和四十七年（一九七二）五月二十七日に創立四十周年を迎えた。